

# 全日本 語りネットワーク ニュース

全日本語りネットワーク

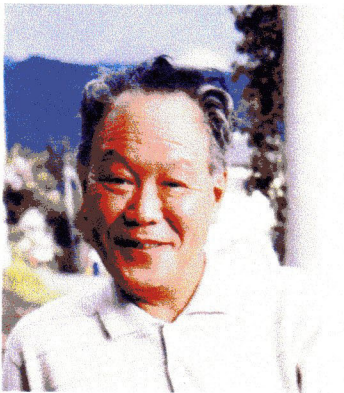
〒376-0006 群馬県桐生市新宿 1-4-33

Tel0277-43-8140 振替 00130-2-114808

<http://members.aol.com/Japankatarinet/>

## 語り継ぐことに想いをよせて

望月新三郎



最近の大学生の4割が、イラクがどこにあるか、その位置が分からないという。

日本地理学会の調査結果をみて、私は沼田鈴子さんを思いだした。

私が広島「ヒロシマを語る会」で沼田さんにお会いしてから30数年が過ぎようとしている。

何度か広島を訪ねて、沼田さんとお会いしたときだった。

「これから青桐のところで、高校生に語るんよ。望月さんもきんさい」

平和公園には元広島通信局にあった、被爆した青桐が移植されていた。夏の日差しの中に、大阪からきた高校生が百名近く、しゃがみこんで待っていた。松葉杖に支えられながら、沼田さんは青桐のあった職場での被爆体験を、静かに語っていく。語りが進むにつれて、高校生の顔に涙が光ってきた。

しばらく語りが続いたあと、沼田さんは私を振り向き、「あんたも語りんさい」という。

私はどきりとした。私はいつも聞き手の一人として、何も準備していなかったからだ。とっさに沼田さんと比較にならない声で、戦争中、食べ物がなかったこと、蛙をつかまえて食べたことなど、しどろもどろに話した事を覚えている。

私はこのときから、あの戦争は何だったのか、体験したこと、戦争の実態を語り継ぐように心がけるようになった。

あるとき、沼田さんは訴えるようにいう。

「いまし、広島にピカ(原爆)が落とされたことを、知らん大学生がおるんよ。何を勉強しとるんや」

このときの沼田さんの悲しい顔が忘れられない。

いま、グループで『怪談レストラン』(童心社)を書いているが、私はこのシリーズのなかで、極力、戦争をテーマにして書いてきた。子どもたちは怖い話が好きだ。怪談の話を書けば、もっと怖いのをと要求してくる。私はそのつど、本当に怖いのは戦争だよ。と、イラク戦争と重なり合わせて、語り継ぐことに想いをよせて作品を書いている。